

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護サービス株式会社	代表者	柳澤 美穂	法人・事業所の特徴	<p>1 個別ケア ひとりひとりが歩んでこられた理解と共感に基づき、笑顔と役割を持ち続けられるように、自立支援を基盤としたケアを行います。</p> <p>2 認知症ケア 認知症の正しい理解に基づき、ひとりの「人」としての尊厳を大切に、その人らしく安心して過ごせる居場所と関わりを提供します。</p> <p>3 看取りケア 穏やかな日々の暮らしの場で安らかな旅立ちを迎えられるように、さまざまな職種のスタッフが協力して、利用者様とご家族に寄り添い支えます。</p> <p>4 地域ケア 住み慣れた地域で安心して最期まで生活が送れるように法人内外の組織住民の方々との連携を図り支援します</p>
事業所名	小規模多機能あったかほ一む坂城	管理者	佐山 邦仁		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	人	人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様の担当については、会社の書式を用いて、役割をより明確化して精査をしていく。	定期的なモニタリングを実施する職員に偏りがあった。書式を活用し始めたが、十分に生かしていない面も見られた。	継続して取り組んでいただきたい。	LIFEの評価と共に3か月毎のモニタリングを職員が行うことで、より、利用者様の状況とニーズに寄り添ったケアを実施していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症予防を含めて、日頃からの環境整備を行っていく。	年度内でのコロナウィルス等のクラスターは発生しなかった。日常的な清掃を実施することで衛生的な事業所環境を維持出来た。	清潔感があり、施設特有の臭いも感じられない。	引き続き、感染症予防を含めて、日頃からの環境整備を行っていく。事業所周圍の環境への配慮を行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	対面が困難な場合には、代替えとなる発信方法で地域との関わりが切れないようにしていく。	行政へ広報誌の配布を実施。職員個々で地域との関りを深めることが出来なかった。	若い世代への認知度や関りを増やせるような取り組みを行っていきたい。	事業所へ来ていただけるような行事を企画実施し、各職員間でも地域との関りが持てるよう、地域資源の確認を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナによる制限の有無に関わらず、地域との情報共有を行いながら、新しいサービスの形式作りを行っていく。	コロナ5類以降後、どんど焼きなどの地区行事や町のお祭りに利用者様を連れていくことが出来た。	地区で行っている花カフェ等への参加の打診がありました。	事業所主体ではなく、各利用者様への聞き取りを行ったうえで、出向いた中で、何を行えたかを評価していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	再度、参加して頂けるメンバーの見直しを含め、会議の拡充と共に、発信方法を見直していく。開催が出来ない場合の意見の集約方法を検討しておく。	対面での開催が実施出来た為、地域や行政からの意見を直接伺うことが出来た。外部から新たに参加いただけるメンバーを増やすまでには至らなかった。	事業所の内容やサービス自体の内容についても理解が深められた。	事業所内での取り組みだけでなく、地域の抱える問題等にも目を向けていく。引き続き、交替で様々な職員の参加を実施していく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域への協力体制や避難方法の共有を図っていく。物品の備蓄等の実施。	BCP計画に基づき、事業所内での取り組みは行えたが、対外的に協力を図るまでには至らなかった。	有事の際には互いに協力し合える関係性を構築していきたい。	BCP計画を適宜見直しながら、地域の方にも実情を把握していただく。また、事業所での災害訓練や地区の災害訓練等への相互の参加を検討し実施していく。